

鳥飼将雅

法学研究科・准教授

【研究】

ロシア、ウクライナの地方政治研究に関して、計量研究を進めた。ロシアに関しては、油本真理氏(法政大学教授)と共同でロシア連邦中央選挙委員会のウェブサイトのデータをもとに、地方議会選挙の候補者と選挙結果に関する包括的なデータセットを構築した。このデータセットは、2003年から2023年という長期にわたって、ロシアの80を超える地方の候補者と選挙結果に関する情報を網羅した、過去にもほぼ類例のないものである。地方エリートと市民の関係の変化を捉える上で、極めて重要なデータとなる。現在、このデータセットを用いた計量研究に着手している。ウクライナに関しては、前年度に構築した2010年と2015年の地方議会選挙のデータセットを利用し、2010年から2014年まで支配政党であった地域党に所属していた議員の再立候補に関する計量研究を進めた。ユーロマイダン革命による政治的变化を経ても、有権者の動員能力を持っている、あるいは人材に乏しい農村部から選出されている場合には、ユーロマイダン革命後に批判された地域党員でも、再立候補しやすいことが統計分析によって確認された。この研究をまとめ、現在英語の査読誌に投稿中である。

【教育】

初めて一年を通じて、4種の講義計5コマを担当した。春学期には比較政治学と定性的研究の理論と方法の演習形式の講義で、大学院生の受講者とともに、各種文献を批判的に読解した。参加者の選好も考慮して柔軟に対応することができた。秋学期には、比較政治の講義と法政導入演習を担当した。比較政治の講義では、昨年度や今年度のアンケートの結果も取り入れつつ、より受講者の希望に沿った講義を提供できたと感じる。法政導入演習は、昨年度の4人から15人に受講者が増えたが、政治学研究の読解・口頭発表・レポート執筆に関して、必要な能力を伸ばすことができたと思う。

【管理運営】

ハラスメント部局相談員として活動した。

また、国際交流室員として各種議題の持ち回り審議に、定期的に参加した。

【社会貢献】

今年度は、日本国際問題研究所のロシア研究会の委員を務めた。年4度の研究会に出席し、今般のウクライナ戦争に伴うロシア政治の変化について地方選挙の観点から発表を行なった。また、その発表の内容に基づきレポートを執筆し、日本国際問題研究所のウェブサイトに公開した。このレポートは、オープンアクセスであり、誰でも閲覧可能な状態となっている。また一般向けの講演として、6月には大阪府高齢者大学校で、12月には兵庫県日本ロシア教会で、ウクライナの政治に関する講演を行なった。